



米田柔整 王座奪還!

第 8 回愛知県柔道整復専門学校柔道大会
第 4 回 (公社) 愛知県柔道整復師会少年柔道形競技会
第 36 回 (公社) 愛知県柔道整復師会柔道大会

6 月 7 日 (日)、第 8 回愛知県柔道整復専門学校柔道大会・第 4 回愛知県柔道整復師会少年柔道形競技会・第 36 回愛知県柔道整復師会柔道大会が、県武道館第 3 競技場で行われた。専門学校大会では前回準優勝に終わった米田柔整専門学校が中和医療との接戦の末、再び王座に返り咲いた。形競技会では半田チームが 4 連覇に輝き、愛整大会では一宮支部が中村支部を破って 3 回目の栄冠を手にした。

専門学校大会では、午前 9 時 30 分からの開会式で森川会長が、公益社団法人である本会の会員組織率が充分でない中、業界と学校の連携を密にして進歩発展に努力している現状を訴え、「大会を通じて学校間の交流を深めるとともに、正しい礼法を身につけてほしい」と挨拶した。

試合はトライデントスポーツ医療科学の大村光一選手の選手宣誓に続き、県内 5 校の 7 人制のリーグ戦で争われた。昨年優勝の中和医療と、過去 6 回の優勝を誇る米田柔整は順当に勝利を重ね、ともに全勝で最終戦を迎えた。先鋒戦は大会通じて初の引分けとなり、次鋒と五将は中和が、中堅と三将は米田が獲るという白熱の展開。優勝の行方が読めない好試合が続いた。2 対 2 で迎えた副将戦で米田の外園選手の鮮やかな大外刈が雌雄を決し、昨年の雪辱を晴らし優勝に輝いた。



表彰式前には、野村時丈六段 (取・中村) と中村 太六段 (受・大曾根) の 2 会員による講道館護身術の形の演武が行われた。



少年形競技会は 12 時 35 分から 10 支部の代表選手により戦われた。5 人の審判員が見つめる中、どのチームも真剣に投げの形を披露し、森 正仁会員が監督を務める半田チームが 4 年連続の優勝を飾った。

優勝チームは静岡県代表とともに東海東部代表として、7 月 26 日 (日) の第 5 回東海少年柔道形競技会と、10 月 12 日 (月・祝) の第 5 回 (公社) 日整全国少年柔道形競技会に出場する。

また上位 2 チームは 6 月 21 日 (日) の東アジア柔道選手権大会で形の演武を行なうことが決まっている。

午後 2 時 30 分からは本会の柔道大会が行われ、昨年優勝の中村支部・池村三行選手のユニークな選手宣誓のあと 10 チームがトーナメント戦で熱戦を展開した。

一宮支部は初戦で豊橋支部を 4 対 1、第 2 戦の準決勝戦で大曾根を 2 対 1 で撃破。決勝戦では昨年優勝の強豪・中村支部を先鋒から副将まですべて一本勝ちで圧勝し、4 対 1 で 8 年ぶり 3 回目の優勝を手にした。

決勝戦の前には、一宮支部の高塚 剣五段 (取) と福山猛久四段 (受) による投げの形が披露された (ともに決勝戦を控える出場選手!)。

表彰式では 3 位までの表彰とともに、優秀選手・多出場選手などが表彰された。



【専門学校柔道大会】▷ 優勝：米田柔整▷ 準優勝：中和医療▷ 3 位：名古屋医健▷ 4 位：東海医療科学▷ 第 5 位：トライデントスポーツ医療看護

【少年形競技会】▷ 優勝：半田 (取：萩田兼市 受：石原涼葉)▷ 準優勝：刈谷 (取：加藤陸人 受：井上 柔)▷ 3 位：笠寺 (取：柘植 元嗣 受：植園文音)

【本会柔道大会】▷ 優勝：一宮▷ 準優勝：中村▷ 3 位：大曾根・岡崎

東海ブロック柔道大会には以下の会員が選出された。

監督：春日井和幸 (大曾根) 大将：石田雅明 (鶴舞) 副将：竹上 勝 (笠寺)
中堅：石黒貴彦 (岡崎) 次鋒：浅井友哉 (一宮) 先鋒：岡崎高章 (一宮)

Welcome!!

新入会員

snapshot

氏名	土手下哲広	小寺悠介
生年月日	S59.10.27	S63.5.27
支部	大曾根	熱田
出身校	米田柔整	米田柔整
段位	—	—
趣味	旅行	ランニング



土手下会員



小寺会員

380 人の鉄人をケア

アイアンマン 70.3 セントレア知多半島 JAPAN



6 月 7 日 (日)「アイアンマン 70.3 セントレア知多半島 JAPAN」が開催された。今年は昨年までの常滑市、知多市に加えて、半田市、武豊町、美浜町、南知多町が新たにコースに入り、5 市 5 町ある知多半島の中の 3 市 3 町が関与することになったため、名称の一部が「知多・常滑 JAPAN」から「知多半島 JAPAN」に変更された。

本会事業部と半田支部を中心に、今年は会員 34 名、勤務柔整師 19 名、学生 1 名の 54 名でケアにあたった。昨年よりさらに増えて 1,600 組あまりとの参加人数を聞いて全員気合いが入った。7 時半に新舞子海岸をスタートした選手は 12 時前から続々ゴールし、その後本会のブースにやってきた。スロースタートだったが、開始して 1 時間も過ぎたころから徐々に混み始め、午後 3 時の受付終了時には去年の 250 人を大きく上回る 380 人も選手が我々のブースに訪れた。もっともっとたくさんの選手のケアをしてあげたいという目標に貢献できたことはとても喜ばしく、ブースの様子を見学に来られ人気ぶりに驚いた大会関係者の方たちから、感謝の言葉をいただいた。

苦痛に顔を歪ませて訪れた選手、脱水症状で私たちのブースからドクターブースに担架で搬送された選手。過酷なレースにチャレンジするために日々練習していても、その日の条件やコンディションによっては結果が左右される。ケアにあたった会員らは、そんな選手に少しでも楽になって帰っていただきたい、笑顔で帰っていただきたい、そんな気持ちを胸に、来年も頑張りたいと決意を新たにしました。

東アジア大会で、本会競技会上位チームが形を披露

6 月 20 日 (土)・21 日 (日)、県武道館で日本初開催の第 8 回東アジア柔道選手権大会が開催された。

本会少年柔道形競技会で優勝した半田ペア (取：萩田兼市、受：石原涼葉) と準優勝の刈谷ペア (取：加藤陸人、受：井上 柔) が、県柔道連盟の要請により、21 日午後、投げの形の演武を行なった。本会の少年の形のレベルの高さが認められ、関係者の評価も非常に高かった。また出場選手にも貴重な体験となった。

また森川会長が来賓として招待され、春日井柔道部長が大会係員 (実行委員・救護係) として参加した。

大会は韓国やモンゴルなど 8 カ国・地域が参加して個人戦と団体戦で行なわれ、かつて本会少年少女柔道大会で優秀な成績を修めた、中井貴裕選手 (パーク 24) や六郷雄平選手 (了徳寺学園)・鍋倉那美選手 (大成高校) らが大活躍。全階級を日本勢が制し、団体戦でも男女ともに優勝した。



形を披露する半田ペア (上) と刈谷ペア
(全日本柔道連盟ホームページより転載)